翔生（しょうせい）

YEG

発行 全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847
編集 広報委員会

平成6年（1994年）
3月1日号
通巻 第16号
（年2回 3月・11月発行）

Symbol「Logomark」 これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで親しみ易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもった経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表しています。

ご・あ・い・さ・つ

ますます高まる青年部への期待

日本商工会議所
会頭 稲葉興作

全国の商工会議所青年部の皆様には、平素から商工会議所事業への理解と積極的なご参加をいただき、厚くお礼申し上げます。さて、わが国経済は長期にわたる景気低迷の下で、[illegible]

明日への創造 地域に挑むYEG

平成6年度全国商工会議所
青年部連合会会長 佐藤善二郎

[illegible]

平成6年度商青連役員候補者
（敬称略・順不同）

ブロック	九州	四国	中国	近畿	東海	関東	北信越	東北	北海道
商工会議所名	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
役職名	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
氏名	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

「3、152」名史上最大の登録者
ありがとう・津大会
《第13回商工会議所青年部全国大会を終えて》

第13回商工会議所青年部全国大会を三重県商工会議所青年部連合会の主管により、去る平成5年11月11日(木)より13日(土)までの3日間、三重県の県庁所在地津市に於いて開催させていただきました。全国より「おいーさ　みんな　しゃべりーさ」の呼掛けに、大会史上初の三千百名余ものYEGメンバーにご参集いただき本当にありがとうございました。

また大会開催にあたり全国商工会議所青年部連合会役員の方々を初め、全国各地の皆様の熱いご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げますと共に、大会期間を無事終了することができましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。

全国大会実行委員長
竹内光伸

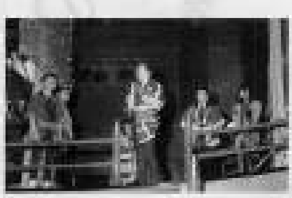
[illegible]

「OBサロン」で親睦の輪

[illegible]

中包吉本興業社長が記念講演

[illegible]



佐藤次年度会長が力強いあいさつ

[illegible]

Q&Aコーナー

「会長」の呼称統一の経緯は?

Q　[illegible]

青年部をより浸透させるため

A　[illegible]

全国大会特集　参加者からのひとこと

◇[illegible]

◇[illegible]

◇[illegible]

全国商工会議所青年部連合会会長 櫻井 誠己

特別企画

青・年・部・対・談

全国の多くの商工会議所と商工会には、若手企業家の集りである青年部があり、各地域でさまざまな事業を繰り広げている。本紙では、それぞれの全国組織の長に今後の青年部の役割などについて話し合ってもらった。

全国商工会青年部連合会会長 吉次 立身

地域間交流で広がるネットワーク

今後の青年部の役割について、お聞かせ下さい。

[illegible]

●河川を仲介に共同事業

商工会議所と商工会の青年部の交流についてはどうお考えですか。

[illegible]

●「一日一生」「質実剛健」

経営哲学や理念についてお聞かせいただければと思います。

[illegible]

やった! 100%を達成

四国ブロック青年部設置率

[illegible]

「四国は一つ」

商青連副会長 矢野 精一 (今治)

[illegible]

「個性あふれる青年部に」

[illegible]

(川之江YEG一同)

特集 全国各地の青年部活動レポート

いま、YEGは地域に挑む！

全国のYEGの仲間のみなさん。お元気ですか。地域活動に励んでいますか。出口が見えない経済不況下でも、YEGはこんなに頑張っています。北から、南から全国各ブロックから寄せられたレポートは、未来に羽ばたく、若き企業家集団の地域からのメッセージです。

「入植者の碑」を建設

郡山商工会議所青年部　東北ブロック

当青年部の今年度事業計画のメインとなったのは「入植者の碑」の建設です。碑は「安積開拓のフロンティア精神を後世まで伝えていこう」と建立しました。

郡山市の発展は明治初期の安積開拓が原点です。全国各地から旧士族が入植して、文字通り血と汗の結晶で荒れ地を切り開き、今日の32万都市・郡山の礎を築きました。碑は、入植者の地に建設してこそ意義があると、平成3年から3カ年かけて事業化を図りました。

郡山に入植した9藩のうち、今回は2藩が完成、それぞれの入植地に建立され、入魂式も取り行いました。郡山市の藤森英二市長は、「郡山市発展の原点は、安積原野を実りの大地に変えた、安積開拓と安積疏水にある」として、開拓者精神を受け継ぐ「水と緑」を市の未来像に掲げています。今回の事業は、郡山の街づくりとも合致するものと考えています。

さらに、ふくしま国体が開催される平成7年までに全9藩を建立する予定です。市民や観光客らがこの碑を見て、少しでも先人の労苦に思いをはせ、開拓の歴史的意義と、郡山の将来に考えを新たにしてもらえれば幸いです。

「サケの稚魚放流」

岩見沢商工会議所青年部　北海道ブロック

どこかの街のキャッチフレーズではないが、わが街でも失われた自然を取り戻し、市内を流れる幾春別川に母川サケを帰らせ、自然に溶け込んだやさしい自然環境を作っていこうという目的のもとで、平成3年より当青年部は事業に取り組んできました。

そこで、ただサケの稚魚を放流するのでは実感がないと感じることから、卵を孵化させ、稚魚に育て、それを放流しようという事になったのでした。

又、生き物の命の尊さ、生命の誕生等いろいろなものを子供たちに感じ取ってもらうために、市内18数ヶ所の保育園ほか幼稚園にもお願いして、春放流の日まで飼育観察したのでした。

途中で飼育の仕方がよく分からず、死んでしまった稚魚もいたが、園児たちは命の尊さを知り、残った稚魚を必死に育てたいという報告を後で受けました。

平成5年4月21日、1月に北海道栽培漁業振興公社より供与された卵から放流、現在体長5cmとなり、4年後を期待しつつ幾春別川で行いました。

追記、現在2年目の実績を生かして継続中であります。

日本一の大たいまつ「松任まつり」

松任商工会議所青年部　北信越ブロック

真夏の祭典「松任まつり」が8月1日、2日両日盛大に行われました。このまつりのメインイベントは直径2・5m、長さ7mの“ひかいだいまつ”と呼ばれる大松明を送です。市街地を練り歩いた「大松明」と虫送りの太鼓」が会場であるふり広場（松任総合運動公園）に到着する頃、まつりは一気に最高潮に達します。

我が青年部員も「大松明」の担ぎ手など、他の各種青年団体とタイアップして、まつりの盛り上げに大奮闘しました。回を重ねる度に参加者も増えつつあるこの「松任まつり」を全国に発信できるような市民の祭典にと夢は大きく広がっています。

我々青年部はこれまで主に内部の充実をはかる事業に取り組んできましたが、もちろんこの事はあらゆる団体において最も重要な事と言えるでしょう。そこで、今期は内部充実をも並前に掲げながら、対外的な視野を持ち、様々な事業に積極的に取り組んでいく事を目標にかかげ、部員一丸となって力を合わせて行こうと思います。

台湾の若手異業種交流グループと姉妹提携

岡崎商工会議所青年部　東海ブロック

3年程前から本会会員の紹介で台湾の高雄市国際工商経営研究社と交流を重ねてきました。昨年4月には日本に企業視察として来岡され、また岡崎からは9月の総会に出席と、回を重ねるうちに姉妹提携の話が進み、昨年9月9日に大久保会長以下14人が高雄を訪れ正式調印をいたしました。

経営研究社とは、商工会議所青年部と同様、若手異業種交流団体で、代表は社長と呼ばれ、今年度の第24代社長には劉安余が就任されました。岡崎の大久保会長はこの調印式では1週間前から練習した中国語で挨拶を行い、まずまずの反応であったと思いました。しかし表現が大陸式で台湾では使わない表現もあったようです。

高雄での歓待も大変なもので、今度来岡された時のお返しが思いやられます。平成6年4月には本青年部の設立3周年の催しを予定しており、招待しようと企画している所です。こうした国際交流の積み重ねが両国の会員企業の発展に少しでも役立つことになれば幸いに思います。

7年目を迎える「大和とくとく朝市」

奈良商工会議所青年部　近畿ブロック

「さぁ、いらっしゃい、安いで、安いで」毎月第1日曜日、奈良の朝はこんな掛け声で始まります。

奈良商工会議所青年部が毎月、JR奈良駅前広場で開いている「大和とくとく朝市」は早朝7時から10時まで、多くの買い物客で賑わう。

出店しているのは、市内の福祉団体、地域の商店、土産物店、農協青年部、それに奈良YEGの“直営店”など約40店。採れたての新鮮な野菜や、奈良の特産品、リサイクル商品が所狭しと並べられ、値段も市価のより安い。

500円の買い物をするごと、全くハズレ無しの抽選券がもらえる。これがまた大人気で長い行列ができること。また、毎年11月には、朝市協議体の会頭や市長が参加して、朝市特別の「瓶つき大会」とふるまい鍋、市民参加のイベントに成長しました。

「朝市」は、地域の活性化とヒューマンネットワークづくりにと、7年前に始まった青年部の事業で、OBからずっと引き継がれてきました。大型店の進出が相次ぐなかで、それに打ち勝つ「原点」が朝市には引き継がれています。

弁慶で街おこし

平田商工会議所青年部　中国ブロック

私たちの住んでいる出雲地方は、「武蔵坊弁慶」に関する伝説が日本で一番多いところです。私たち平田商工会議所青年部はその「武蔵坊弁慶」にスポットを当てて、過去3年間色々な事業を行ってきました。

そして、創立15周年を迎える本年度、一つの集大成としてアニメ「出雲伝説・弁慶」を自費出版しました。

内容は、出雲地方に現存する伝説を基に弁慶誕生、幼児期、少年期、修業寺出の修行時代、釣鐘伝説（撞木に釣鐘ということわざの語源）といったあまり知られていない弁慶伝説を題材にして、漫画家・小室孝太郎氏、島根大学酒井董美教授のご協力を得て発刊致しました。

私たち青年部はこの本を通じて、地元の子供達が、自分の生まれ住む町の昔の姿を夢み、文化としての伝説を認識することによって郷土を愛し、誇りに思う心を育てられればと思います。更にこの本の出版が、市外、県外に対して情報発信となり、地域活性化、街おこしに対するきっかけになることと信じています。皆様も是非ご一読ください。

インポートフェア'93

安芸商工会議所青年部　四国ブロック

産業の停滞がはっきりと我々の町にも表れてくるなかで、去年の産業祭（平成5年のこと）では、商工業者の意識をふやしこれこそ安芸の活力だと言えるものを出したいと思い青年部全員で論議をしました。

例年の1.5倍の入場者を入れるためには、何か目玉となるイベントや催し物をしなくてはと考え思い付いたのが、インポートフェアでした。

安芸商工会議所青年部は、平成元年にインポートフェアを主催していましたので、そのときの反省に立ち内容を決定しました。

それは、①産業祭との共同開催によりメリットを生かし、魅力ある商品を提供する各団体（婦人部・青年会議所等）に出店協力をして頂いて、世界の料理を試食する②食のインポートとして、世界の食料品（中心は牛肉と果物）を販売する③インポートを身近にするためのイベントとして「3オン3ストリートバスケット大会安芸カップ」を開催して10代の若者を会場に集める。などを基本に、平成5年11月13、14日に開催しました。

「第1回桐生MVP表彰式」

桐生商工会議所青年部　関東ブロック

桐生商工会議所・日野名誉会頭の提唱により、会議所活動に若い感覚を注入して新鮮な事業展開をと青年部が昭和59年4月に設立されて10年が経過しました。

その間、会議体機能の一翼を担う組織として、会員相互の親睦と自己啓発を図ると共にフレッシュな事業活動を展開して参りました。

青年部の基本方針であります「活力ある桐生を青年部で」を実現するため、創立10周年記念事業として私たちの住む街桐生に貢献した方や、桐生の名を全国的に広めた方を毎年いろいろの分野より選出し、「桐生市民の誇り「桐生MVP」として表彰し、市民に末永く親しまれる代表的な事業にしていこうと設立し、基金（50万円）を創設いたしました。

そして、この度第1回「桐生MVP表彰式」が12月11日新しく完成した商工会議所会館ケービックホールで開催されました。

第1回の受賞者は、第75回全国高等学校野球選手権記念大会に出場し、伸び伸びした高校生らしい野球を展開して、桐生の名を全国に広め、多くの桐生市民に深い感動を与えてくれた「桐生第一高等学校野球部」が選ばれました。

創立10周年でブロック大会を主管

伊万里商工会議所青年部　九州ブロック

広報委員の皆様こんにちは、今回、当伊万里青年部に記事寄稿のチャンスを与えて頂き誠に有難うございました。このチャンスにまず伊万里の紹介をさせて頂きます。

当市は佐賀県西北部に位置する人口6万の古くから焼物で栄えた町で、かつて世界に名を轟かせた「古伊万里」の積出港としてその名をご存知の方も多いと思います。

また、一方では豊かな自然を生かした農水産物の産地でもあり、梨や伊万里牛、伊万里湾の新鮮な魚など、食通にはこたえられない町でもあります。

さて、本会では創立以来今日までの9年間、この豊かな故郷の活性化をと数々の事業に取り組んできました。例えば、夏の「納涼ビール列車」「異業種交流展」「1万人コンサート」等々…活性化に関する事は手当り次第に実施してきましたが、6年度に10周年を迎えるに当たり、これまでの集大成としてブロック大会を主管する事となり、今年度は活動の的をその準備に終始した次第です。

6年度は、本会にとってあるいは伊万里にとってさらなる飛躍への第一歩となることでしょう。

伊万里ロマンに誘われて、皆様ぜひお越し下さい。お会い出来る日を楽しみに致しております。

好評！同業他所の交流会

小田原で第11回中央研修会を開催

第11回中央研修会に於きましては全国170余青年部集会・5?6名の方々の参加をいただき無事に開催させていただきました。多数の御参加誠にありがとうございました。

神奈川県連そして小田原YEGの仲間が手作りのこだわりをもって、お待ちいたしました。同業者所のグループ仕分けや書類システムによる「もてなし」いかがだったでしょうか。せっかく小田原の地にいらしていただいたのですから、あれも見て欲しい、これも聞いて欲しいと張りきりましたが小田原YEGの、心意気受け取っていただきましたか。少しでも感じていただけたなら幸甚の大盛況です。

[illegible]

[illegible]

ひとこと

[illegible]

来年度は京都で中央研修会

[illegible]

翔生 Communication PLAZA

全国会報コンクール

「やるべ志」青森YEGが最優秀賞

昨年の倍の81単会が応募

やるべ志
7月定例会へ向けて猛特訓中!!

全国の青年部から会報コンクールの募集をしたところ、昨年の約2倍の81単会の応募がありました。審査は[illegible]
[illegible]
（広報委員会）

▼平成5年度全国会報コンクール入賞作品

最優秀賞	「やるべ志」（青森）
優秀賞	「KAMO YEG NEWS」（[illegible]） 「やろまいか」（[illegible]）
アイデア賞	「A－YEG」（[illegible]）
トレンド賞	「おーい」（[illegible]）
ユニーク賞	「かぐや姫通信」（[illegible]）
努力賞	「チェスト」（[illegible]） 「CHALLENGER」（[illegible]）
特別賞	「innovation」（[illegible]） 「NEWS なら大好」（[illegible]）

永年の工夫と熱意の成果！

青森YEG喜びの声　いつかは全国大会を…

[illegible]

青森商工会議所青年部
会長　[illegible]

「石垣」定期購読のおすすめ

価値創造の時代に　地域リーダーの一冊

日本商工会議所は昭和56年、地域のビジネスリーダーである全国の商工会議所会員を対象に月刊「石垣」を発行しております。この「石垣」は、変革を続ける現代において、あらゆる場面で決断を迫られる方々に[illegible]を提供する月刊誌として親しまれています。

「石垣」には、今、商工会議所関係者にとって[illegible]

とりわけ4月号からは、YEG[illegible]

ぜひ、この機会に「石垣」をご購読いただき、新時代を切り拓く一助としてください。

◆年間購読、直接郵送制
◆月刊（毎月10日発行）
◆購読料年5,880円（税、送料込み）
◆お申し込み先／所属している商工会議所
◆お問い合わせ先／日本商工会議所　広報部
☎03・3283・7[illegible]

NAGASAKI

多彩な文化が交流する国・際・都・市

平成6年度全国大会は長崎で開催

平成6年度「第14回商工会議所青年部全国大会」を長崎県商工会議所青年部連合会との共催のもと長崎市において開催させていただきます。

長崎県は、日本列島の西端に位置し、海岸線は約1,000km、600もの島々を抱く日本一の海洋県といわれております。

西欧諸国の公開、鎖国大事国による諸国との楽しい貿易と豊かな風土、文化にも恵まれた安政時代から大陸の文化は、対馬、壱岐、五島の島々を伝わりわが国に上陸し、鎖国時代には唯一の開港地として、大陸や海洋の文化がすべて長崎に流入致しました。

また、近年では世界遺産という新たな観光の資源をうけ、昭和57年には長崎大水害、平成2年には雲仙普賢岳噴火という試練を克服しつつ今日に及んでおります。

会場となります長崎市は、大浦天主堂、眼鏡橋、出島オランダ商館跡、グラバー邸さらに歴史的遺産にみられるように、国際都市としてまた多彩な文化交流点としてわが国でも有数な役割を果たして参りました。江戸から明治、と時代が移り変わって行く中、当時の情勢を感じる青年たちは長崎に集い、日本の未来を語り、そして新しい日本の創造へと行動を起こしてまいりました。

さて、今年度をとりまく環境は、東西冷戦構造の崩壊にともない、民族・宗教などに関わる複雑な紛争が発生し、エネルギーや食料をはじめとする資源、地球環境、経済問題など国際社会という枠組みの中では解決のできない難問が山積しクローズアップされております。

そのような中、日本国内においても戦後復興のための50年体制が崩壊し、新しい体制がスタートいたしました。今まさに、戦後経済を克服させ今日の経済大国日本を支え続けてきた経済団体である商工会議所の後継者たちが「自分で考え行動し人の意見を聞き、自分の意見を討議し相手に伝える」という、国際社会に通じる人間にならねばなりません。

長崎で第34回全国大会において、未来の日本のビジョン、YEGの方向性を語り合い、積極的に参加、友情を深める場をつくろうではありませんか。そして、21世紀を目前に控えた今、明日への飛躍の第一歩として長崎に集まり明日指導にも向けないチャレンジを始めようではありませんか。

「一期一会」出会いを大切にして参りたいと思います。多くのYEGの皆様のお越しを心よりお待ちいたしております。

（大会会長・櫻田祐臣）

「一年を振り返って」

平成5年度商青連会長　櫻井誠巳

平成5年度を振り返りますと、実に内外ともに変化の多い年であったと思います。91年秋に宮澤喜一ストーリーを「変革の時、今こそわが未来を語る」を決めた約2年は、これほど変革の年の前置きは出て来るとは予想もしていないスタートでありました。政権が交代、新しい政治体制の模索が始まりました。不安定な時代は、経済の仕組みの見直しまで求める世事へとつながりつつあります。昭和後半から平成へと変わりました。今回の変革期は、その変革の時代へと突入した証かもしれません。この変革を中心に表現の仕方がわかったと思っています。また、商青連活動の変革も取組んで参りましたが、それなりの成果はあったと思います。全国組織の活性化は、全国各地の実情がそれぞれ異なっていることを痛感いたしました。しかし、諸事を乗り越えたことによってかなりの共通点が見えてきました。既に次期の会長・副会長予定者による大のかかで次ムーズな運営、充分なるコミュニケーションが取れる体制を整える時期が来ていることを認識し、積極的に組織変革を進めることが必要だと感じます。

商工会議所活動の一翼を担う全国組織として総合議所の連合体である日商、あらいは財界的なアピールを行える体制をつくっていく必要があると思います。

何はともあれ、お世話になり、この一年が過ぎたと言う安堵に感謝いたしておいであります。

1994.11月24日(木)～26日(土)

■主催／全国商工会議所青年部連合会・日本商工会議所　■主管／長崎県商工会議所青年部連合会

■開催地青年部／長崎県商工会議所青年部

EDITER

皆さんの御協力をいただき、広報委員会の5年事業も、この号で16号で終了致しました。次年度の広報委員会の皆様へ宜しくお願いします。

大山　隆（北商連）

一年間きの広報委員会に所属いたしましたが今年は広報の難しさを感じる事ばかりでした。次年度は広報委員会であったと思います。

賀本剛宏（萩田）

西国プロックの青年部連盟事務局という先輩諸の活動を間近に拝見でき勉強になりました。

井　康雄（諫早）

青年部へ出向して全国の多くの皆様方と出会い自分に得るものがたくさんありました。ありがとうございました。

堀田芳久（諫早）

今年はいろいろな意味で「変革の年」でした。商青連も、そして「明日も」も。1年出向が終まり、広報委員会でお世話になります。よろしくお願いします。

本山貴一（諫早）

矢の如くの一年間でしたが充実した年でありました。出会いと感動をもって下さった県会と商青連の皆様の皆さんに感謝申し上げます。

野見　真（諫早）